



本会記事

■平成 30 年度「女子中高生夏の学校 2018 ～科学・技術・人との出会い～（夏学）」 参加報告

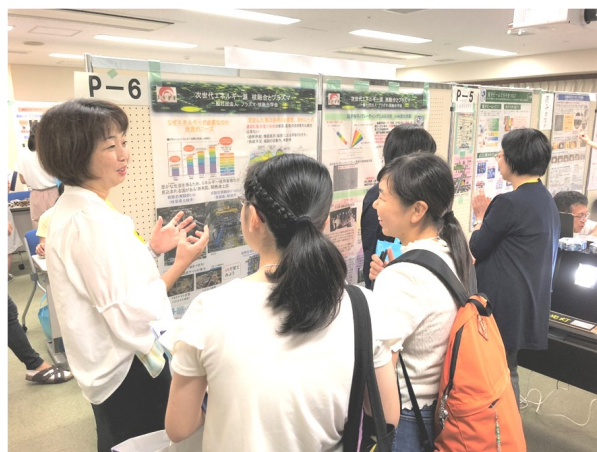
「女子中高生夏の学校 2018」が 2018 年 8 月 9 日～11 日に独立行政法人・国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）で開催されました。女子中高生夏の学校は 2005 年にスタートし、科学技術振興機構、国立女性教育会館、男女共同参画学協会連絡会などの様々な団体の支援で、大学の教員らによる実行委員会主催で行っている女子中高生の理系進路選択支援事業です (<http://natsugaku.jp/>)。毎回全国から 100 名を超える女子中高生やその保護者、学校の先生が参加する 2 泊 3 日の合宿で、キャリア講演、実験・実習、ポスター展示・キャリア相談、キャリアプランビルディングなどが、女子学生・大学院生 TA のサポート、各学協会などの参加で行われ、女子中高生が自らの理系進路のイメージを持てるような体験、相談ができる場として開催されています。

本学会は、合宿の 2 日目、ポスター展示・キャリア相談ブースにおいて、「次世代エネルギー源 核融合とプラズマ」というテーマでポスター展示を行いました。本学会は 2015 年から参加しており、今年は、核融合研の 2 名（村上、芦川）、QST から 2 名（柏木、會澤）、群馬大・高橋の計 5 名が担当しました。QST からは資料、ITER のペーパークラフトの提供と ITER 建設の様子のバーチャリアリティ (VR) 展示、核融合研と総研大核融合専攻からは資料、クリアファイルと組み立て式簡易分光器の組み立てキットの提供がありました。資料等は、本学会から提供したクリアファイルとともに多くの女子学生に配布されました。

今年の夏の学校には 117 名の女子中高生が参加し、そのうち約 50 名（保護者等を含む）が、プラズマ・核融合学会のブースに来られました。ブースではエネルギー、核融合、プラズマ、ITER などについて説明を行いました。特に ITER の建設現場の VR 体験が大人気でした。

昨年までと同様、「プラズマ」や「核融合」は良く知らないという生徒がほとんどでしたが、丁寧に説明するとよく理解してくれました。組み立て式簡易分光器を用いたスペクトルの観測も興味を持ってくれました。物理に興味のある学生も多く、意識の高い優秀な女子中高生にプラズマや核融合を知ってもらうために、本展示はとても有効だと感じました。

ポスター展示の終了後、村上は学生企画の「GATEWAY」に参加し、「物理に興味がある、または物理が好



きで、物理に進学したい」といった女子中高生たちの相談に応じました。物理では何を勉強するのか、また、物理は何に役立っているのか、物理を勉強したら、どういう職業に就けるのか、といったような多くの質問をうけ、女子中高生の熱心な様子に感心しました。

（プラズマ・核融合学会男女共同参画委員会委員
村上 泉）